



令和元年度予算のあらまし

水道事業会計予算

令和元年度の水道事業は、16万9千戸へ年間3千895万 m^3 (1日平均10万6千 m^3)の水の供給を予定しています。また、耐用年数を経過した管路の更新等を行い、災害に強い水道施設を整備する予算として7億3千万円を計上しています。

豊見城配水池の建替え事業

主な事業

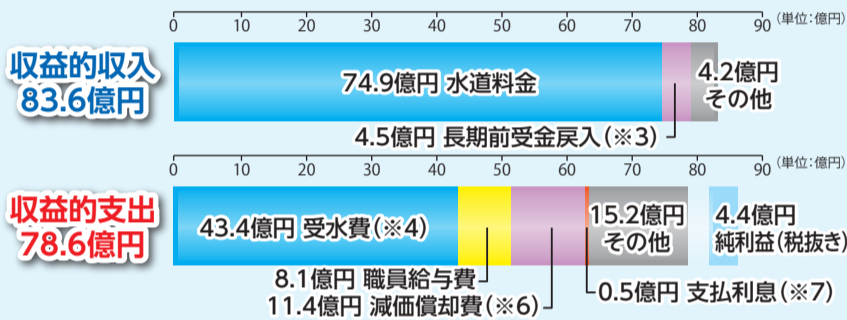


豊見城配水池は昭和49年3月に竣工し、建設後約45年が経過し経年による老朽化が進みこの度建替工事を計画しています。
事業期間:令和元年度~令和5年度(予定)
構造形式:PC構造(プレストレストコンクリート製)
容量:4,800 m^3
【お問い合わせ】水道工務課 TEL:941-7807

収益的収支 ※1 (税込み) (水道水を供給するための収入と支出)

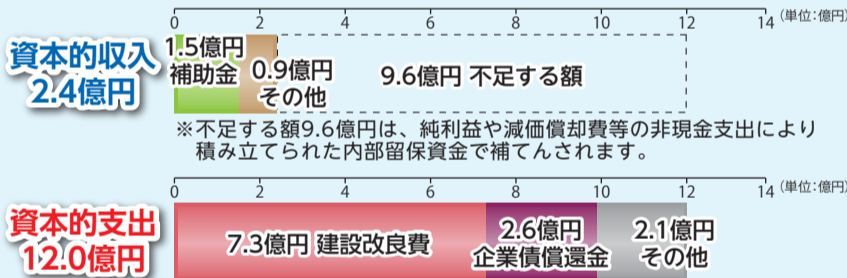
水道事業は、利用者のみならずからお支払いいただいた水道料金で運営されています。

この水道料金は、浄水の購入費、水道施設の維持管理経費、職員の給与費等の費用に使われています。また、減価償却費等の現金の支出を伴わない費用や純利益を施設整備費用や企業債償還金の財源として留保しています。



資本的収支 ※2 (税込み) (施設を作るための収入と支出)

水道施設を整備するために必要な経費及び企業債償還元金と財源を計上しています。



下水道事業会計予算

令和元年度の下水道事業は、15万7千500戸から排出される汚水3千603万 m^3 (1日平均9万8千 m^3)の処理を予定しています。また、浸水対策等下水道施設を整備する予算として16億7千万円を計上しています。

首里石嶺町地区雨水調整池設置工事業

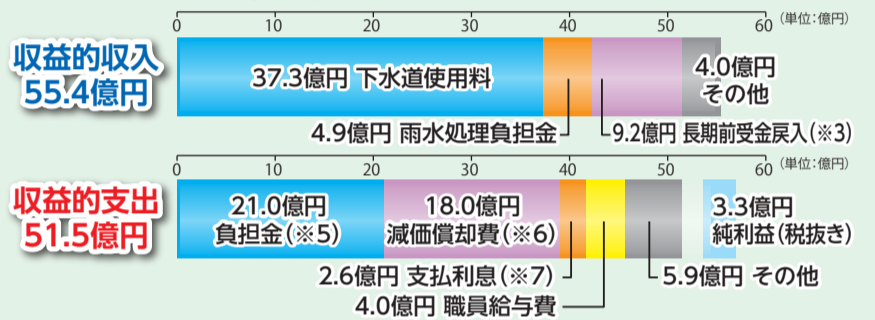
主な事業



首里石嶺町4丁目地区の浸水被害軽減を目的として、地下貯留式雨水調整池の設置工事を計画しています。
事業期間:平成28年~令和2年度(予定)
構造形式:地下貯留方式
容量:6,000 m^3
【お問い合わせ】下水道課 TEL:941-7808

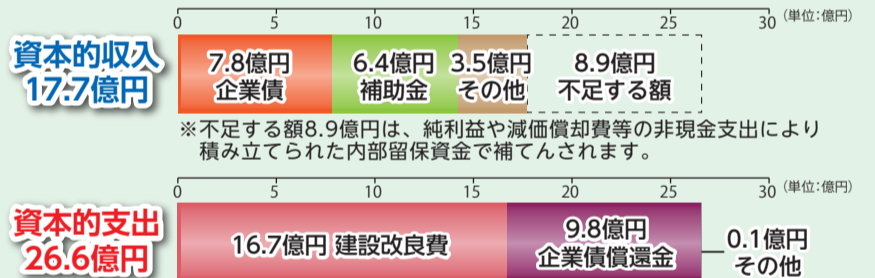
収益的収支 ※1 (税込み) (下水を処理するための収入と支出)

汚水処理事業及び再生水利用下水道事業は、基本的に利用者のみならずからお支払いいただいた使用料等で運営されており、雨水処理事業は、一般会計からの負担金で運営されています。これらの収入は、流域下水道汚水処理負担金、下水道施設の維持管理経費、職員給与等の費用に使われています。また、減価償却費等の現金の支出を伴わない費用や純利益を企業債償還元金の財源として留保しています。



資本的収支 ※2 (税込み) (施設を作るための収入と支出)

下水道施設を整備するために必要な経費及び企業債償還元金と財源を計上しています。



【用語の説明】

- ※1 収益的収支 → 事業を運営するための財源と経費
- ※2 資本的収支 → 施設を新設・更新等するための財源と経費
- ※3 長期前受金戻入 → 償却資産 ※8 の取得・改良のために受けた補助金等の収益化分(非現金収入)
- ※4 受水費 → 沖縄県企業局から購入する浄水費
- ※5 負担金 → 沖縄県の下水道施設使用に伴う費用等
- ※6 減価償却費 → 施設の価値減少分
- ※7 支払利息 → 企業債等の借入れに伴う支払利息
- ※8 償却資産 → 固定資産のうち、毎年度減価償却を行うべきもの

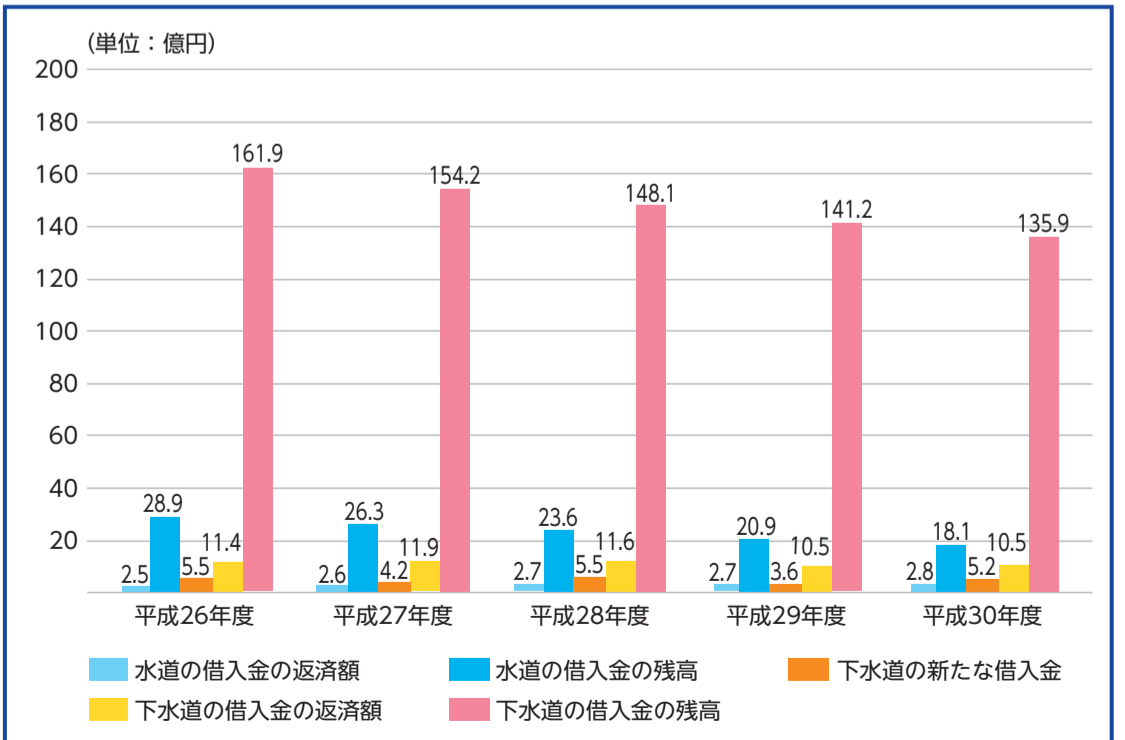
企業債残高について

水道事業に比べると、下水道事業は借入金 ※1 の残高が非常に大きいことがわかります。下水道の普及率は現在98.2%に達していますが、ここまで来るために莫大な費用が投じられてきた結果が右のグラフに表れています。

水道事業では新たな借入を行っていないため、残高は減少しています。下水道事業では新たな借入が続いていますが、借入金の額よりも返済額の方が大きいため、残高は減少しています。

借入金の返済は純利益 ※2 を減債積立金に積み立てて行いますが、下水道事業ではそれだけでは足りないため、将来の下水道施設の更新のための内部留保資金をも返済に充てており、大変厳しい財政状況が続いています。

- ※1 借入金 → 企業債による外部資金の借入分
- ※2 純利益 → 事業の経営活動した結果生じた利益 (純利益には非現金収入の長期前受金戻入が含まれています。)



お問い合わせ 企画経営課 TEL:941-7803

暑さに注意! 喉が渇く前に水道水を飲もう!